造形芸術コース，生活造形論

生活の美を発見し、生活造形に関する各自の「ものさしづくり」を育む

美術教育・千代田憲子

１．授業の基本情報・概要

本授業は、造形芸術コース専門教育科目のコース必修科目で３年時後期に開講しており、受講生 11 名は２年時より絵画・デザイン・彫刻・工芸の４分野のいずれかを専攻している。

過去と現在の生活を取り巻くモノとコトと環境から今後の生活造形を考え、ものづくりに携わる者としての意識を養う。

まず、生活造形の背景にある暮らしとの関わりについて、民具や民芸を通して「用と美」を考え、次にインテリアからエクステリアの生活スタイルや海外の事例を紹介する。その後、体験的な民具調査を行い、写真や図を主として A2 サイズのボードにまとめ、最後に、生活造形についての私考を A4 サイズ２枚の見開きにまとめて発表し、冊子とする。

２．授業評価・授業研究の内容

アンケート結果より抜粋(11 名/自由表記)

① 民具の調査とボード制作発表について

・範囲が広く取り組みづらいと感じたが、テーマを決めてからは楽しくできた。
・それぞれのテーマに民具に対する見方や知識が増えた。
・奥が深くて面白かった。
・探せばあるものだと思った。
・県外を訪れ様々な発見ができた。
・物の大切さや昔の物の素晴らしさを学んだ。
・内容が違い発表を聞くのも楽しかった。
・調査が難しくて上手くできなかった。
・祖父母にたくさん話しを聞いたが上手くまとめられなかったのが心残り。
・祖父母に話を聞く良い機会で今後も積極的に話をしていきたい。
・間にあわなかった物もあるがボードは楽しく取り組んだ。

②写真集「まなざし」の解説について

・生活の工夫が勉強になった。
・聞いてこそわかることや解説の前後に写真の見方や印象が変わることが面白い。（２名）
・気候風土等でストリートファニチュアや建築物の形態が変わっているのが面白かった。
・何気ない写真も解説を聞くとなるほどと思え、自分のまなざしを拡げ良いものにしていけることに繋がると思った。
・海外の街並や文化に驚き面白かったし、今後の暮らしや考え方に役立てたい。
・解説により写真の向こう側の実態を知り、身の回りの生活造形に目を向けられた。
・写真から色々な要素がわかり、海外のデザインや人々の工夫が見られて良かった。
・植栽に関して、気候風土と併せて選ぶ大切さなどが印象に残った。
・まちづくりの考え方や違いが興味深かった。
・エピソード等を知り、より興味を持った。

③レポートの編集・発表・冊子化について

・他の人と見比べられ手元に残るので新鮮。
・自分の生活環境について意見を持つことが大切と思った。
・冊子化はそれぞれの個性やレイアウトデザインが見られてとても面白い。（２名）
・陰翳礼讃を読むことで自分なりに考えた。
・同じ授業を受けても異なる興味関心の方向や自分の考えが伝わり良かった。（２名）
・興味のあることについて改めて考える良い機会となりためになった。（２名）
・テーマが自由で楽しく取り組めたがレイアウトは見直したい。
・はじめはイメージが湧きづらく大変だった。

３．「授業時間外学習の促進」について

民具調査は冬休みを利用して祖父母の時代の聞き取りを行い、実物に触れた感覚を重視したまとめを促した。加えてレポート制作時も、ビジュアライズされた紙面となるように編集制作するために推敲を重ねている。

４．総括

自由度の高いテーマでレポートに取り組み、1 冊の雑誌を作るイメージで冊子化を行ってきたが、3 年後期でこそ成立する取組みだと実感している。モノと向き合いモノから学ぶことが不可欠なコースなので、視覚を主とした五感から得たものの整理を通して客観性を導くことが、次の成長に繋がると考えている。